

環境保全条例制定の

検討結果は



山崎 文久議員

山崎文久議員 私たちの周りは、年々劣悪な環境状況になりつつあると思うのは、私一人だろうか。私は、以前、「環境保全条例の制定」について質問したが、前向きに検討するとの回答であった。検討をした結果は、どうだったのか。

北村町長 平成十三年度からゴミの分別収集が始まり、町民の理解と協力により順調な経過である。このことで、町民の環境に対する関心や意識が高まってきている。薩摩郡

東部衛生処理組合の管内五か町で、「環境保全条例制定」について検討したが、意見の一致をみなかった。祁答院地域に適合した「環境基本条例」を早急に検討し、議会に上程するようにしたい。

山崎議員 今、我が町では「3sun30クリーンの日」運動、「川内川クリーン作戦」、「ろまんちつく街道クリーン作戦」など、あらゆる方面から、環境の浄化に対する取り組みがなされているが、町独自で早急に検討し、上程すべきではないか。

町長 自分たちの町を、自分たちの手できれいにする取り組みを進めながら、条例も必要と思われ

るので、出来るだけ早い時期に、条例制定に向け

て取り組んでいきたい。



心ない人が歩道に捨てたゴミ（町道佐志鶴田駅線）

有害鳥獣対策について

山崎議員 今年は、特にイノシシ・シカ・サル等による農作物被害が激増しており、農家は対策に

大変苦慮している。駆除隊員も高齢化や兼業化が進み、出動もままならぬ現状である。鉄砲を使

わない「箱罠」を導入すべきと思うが、「箱罠」の許可数は適正か。また、電気柵は申請が多いのに、県の補助枠に限りがあることから、来年度送りにされていると聞くが、町独自でも対応をすべきではないか。

町長 電気柵については、希望のあるところには、町独自設置も検討していきたい。また、最近の市街地でのサル対策は、防災無線での注意喚起、捕獲オリの設置等の対策を講じているところである。

農林課長 「箱罠」の適正数については、本年が初めての取組みであり、経過を見ながら、猟友会とも協議をしていきたい。電気柵は設置希望が多く、本年はイノシシ、シカで十件の超過である。